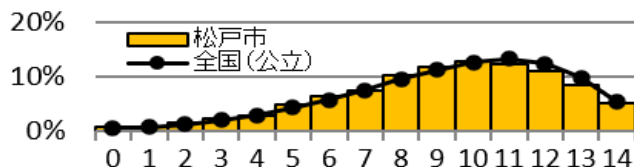


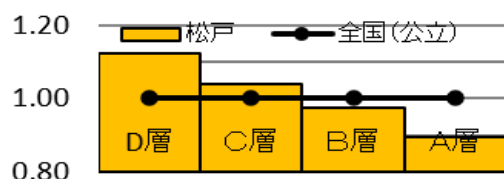
令和7年度全国学力・学習状況調査 松戸市の学力状況【小学校】国語・算数

正答数と4つの学力層の分布

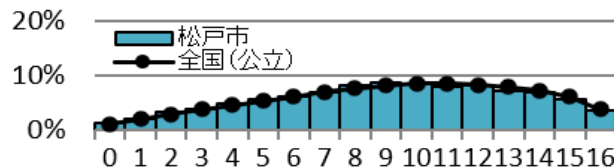
小学校 国語



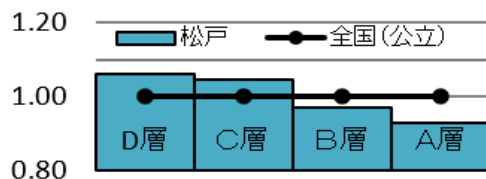
| 層 | D層 | C層 | B層 | A層 |
|--------|--------|--------|---------|---------|
| | 0問～6問 | 7問～9問 | 10問～11問 | 12問～14問 |
| 松戸市 | 20.0 % | 29.6 % | 25.4 % | 24.8 % |
| 全国(公立) | 17.8 % | 28.5 % | 26.0 % | 27.7 % |



小学校 算数



| 層 | D層 | C層 | B層 | A層 |
|--------|--------|--------|---------|---------|
| | 0問～5問 | 6問～9問 | 10問～12問 | 13問～16問 |
| 松戸市 | 21.3 % | 30.4 % | 24.8 % | 23.5 % |
| 全国(公立) | 20.1 % | 29.1 % | 25.6 % | 25.3 % |



【傾向と課題】

「正答数」：国語・算数ともに、おおむね全国と同程度の分布状況です。

「4つの学力層」：全国と比較し、国語・算数ともに、C・D層の割合が高く、A層の割合が低いことが課題です。

教科についての傾向と課題（各区分の全国の平均正答率を100とした場合の相対値を示す）



小学校 国語

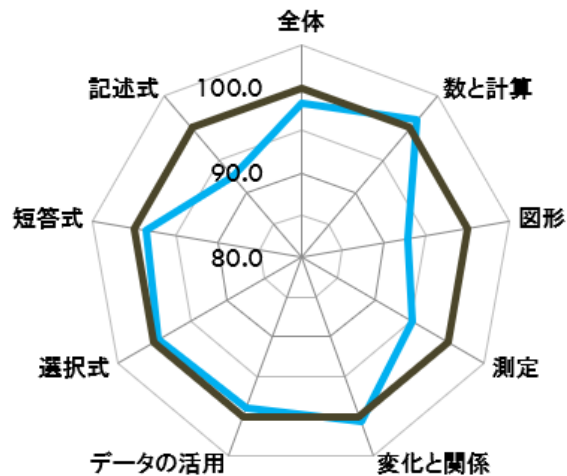
【傾向と課題】

各内容・問題形式ともに全国平均と同程度ですが、問題形式「記述式」については、特に全国平均を下回っており、課題と言えます。

【改善のポイント】

国語に限らず、記述式の問題を解答できるようにするためには、日頃から「書いてアウトプットすること」を継続的に取り組むことが重要です。

記述することについて苦手意識を持っている児童も、繰り返すことで慣れていきます。書く活動をなるべく多くの教科で取り入れていく必要があります。言語活用科日本語分野の学習内容も参考にしてください。



小学校 算数

【傾向と課題】

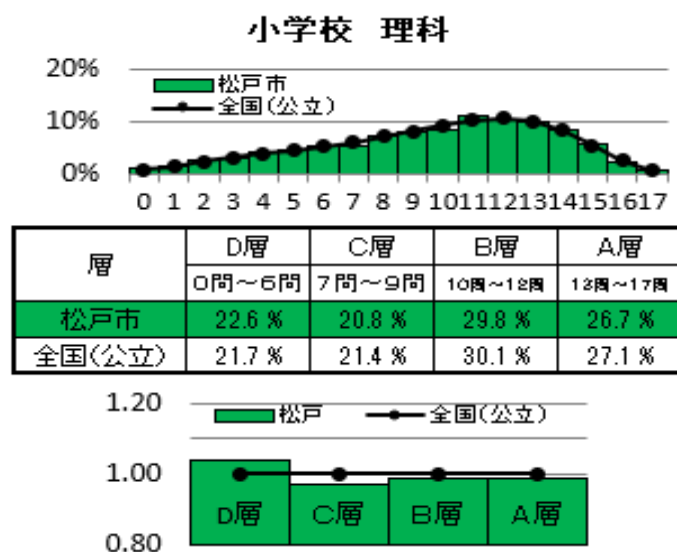
領域では「図形」「測定」、問題形式では「記述式」が全国平均より、1割程度下回っており、課題と言えます。

領域の「数と計算」「変化と関係」においては、全国平均を若干ですが上回っております。

【改善のポイント】

「図形」の領域については、図形を構成する要素に着目して、図形の性質を振り返ることが重要です。「測定」の領域については、はかりの目盛りを読む際に、教科書に記載の平面だけを扱うのではなく、実物を使って実際に重さをはかってみるなどの、数学的活動を取り入れることも大切です。

正答数と4つの学力層の分布

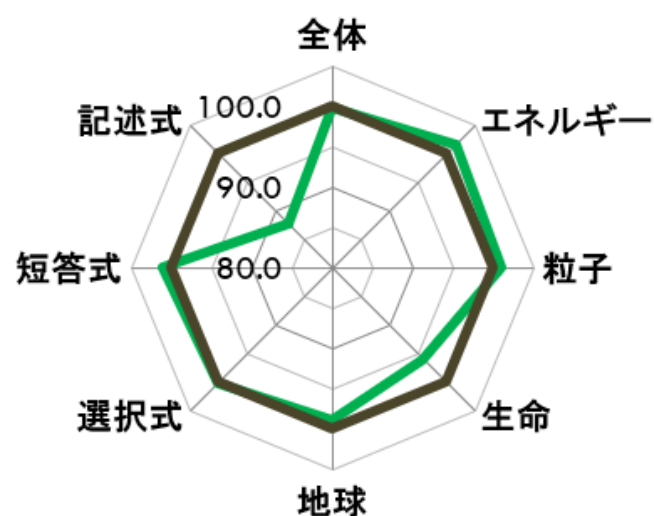


【傾向と課題】

「正答数」：おおむね全国と同程度の分布状況です。

「4つの学力層」：全国と比較し、D層の割合が若干高いことが課題です。

教科についての傾向と課題（各区分の全国の平均正答率を100とした場合の相対値を示す）



小学校 理科

【傾向と課題】

各領域・問題形式ともに全国平均と同程度ですが、『生命』を柱とする領域、問題形式「記述式」については、特に全国平均を下回っており、課題と言えます。

【改善のポイント】

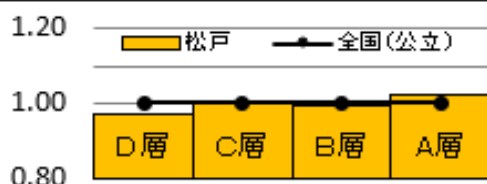
『生命』を柱とする領域においては、花の器官同士の関係性や全体の仕組みを説明する力が求められています。また、単なる暗記ではなく、実験結果を根拠に考察することが必要です。記述できるようにするためには、「なぜそう考えたのか」を、根拠を明確にして、論理的に構成しながら説明する機会を増やすことが重要です。

正答数と4つの学力層の分布

中学校 国語



| 層 | D層 | C層 | B層 | A層 |
|--------|--------|--------|--------|---------|
| | 0問～5問 | 6問～7問 | 8問～9問 | 10問～14問 |
| 松戸市 | 21.9 % | 38.6 % | 24.3 % | 15.0 % |
| 全国(公立) | 22.5 % | 38.3 % | 24.5 % | 14.7 % |

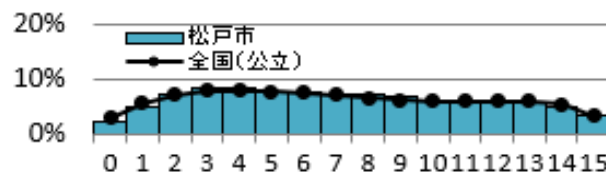


【傾向と課題】

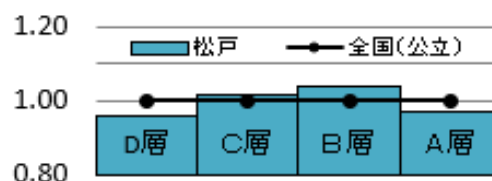
「正答数」：国語・算数ともに、おおむね全国と同程度の分布状況です。

「4つの学力層」：全国と比較し、数学のA層の割合が若干低いことが課題です。

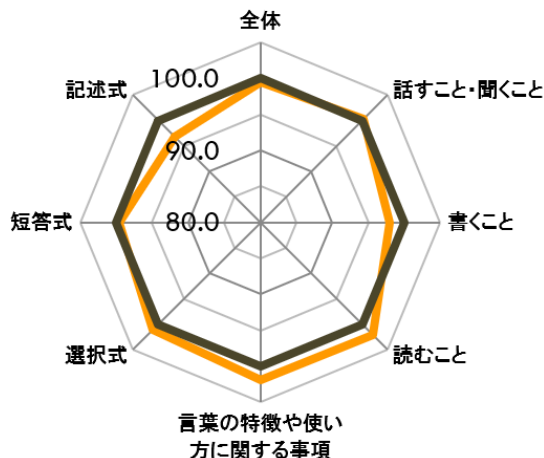
中学校 数学



| 層 | D層 | C層 | B層 | A層 |
|--------|--------|--------|--------|---------|
| | 0問～3問 | 4問～6問 | 7問～10問 | 11問～15問 |
| 松戸市 | 22.9 % | 23.7 % | 27.1 % | 26.2 % |
| 全国(公立) | 23.8 % | 23.3 % | 26.1 % | 27.0 % |



教科についての傾向と課題（各区分の全国の平均正答率を100とした場合の相対値を示す）



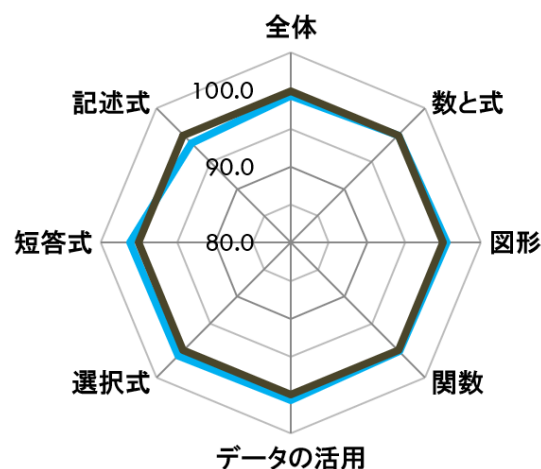
中学校 国語

【傾向と課題】

各内容・問題形式ともに、全国平均と同程度ですが、内容「書くこと」や問題形式「記述式」については、全国平均をやや下回っており、課題と言えます。

【改善のポイント】

今回の書くことの問題にあっては、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることが重要です。特に、書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導が必要です。



中学校 数学

【傾向と課題】

各領域・問題形式ともに全国平均と同程度か、若干上回っております。

近年課題であったデータの活用において、全国平均と同程度となっております。

【改善のポイント】

学習活動の中で思考したものを、数学用語や数式、表やグラフなど、多様な数学的表現を用いて、生徒自身が説明する場面を多く設定することが重要です。

令和7年度全国学力・学習状況調査 松戸市の学力状況【中学校】 理科

IRT スコアについて

【IRT スコア集計値】

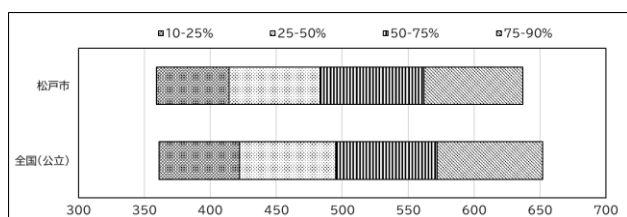
| | 平均IRTスコア | 標準偏差 | パーセンタイル値 | | | | |
|--------|----------|-------|----------|-----|-----|-----|-----|
| | | | 10% | 25% | 50% | 75% | 90% |
| 松戸市 | 493 | 119.1 | 359 | 414 | 483 | 562 | 637 |
| 全国(公立) | 503 | 124.0 | 361 | 422 | 495 | 572 | 652 |

【IRT スコア】

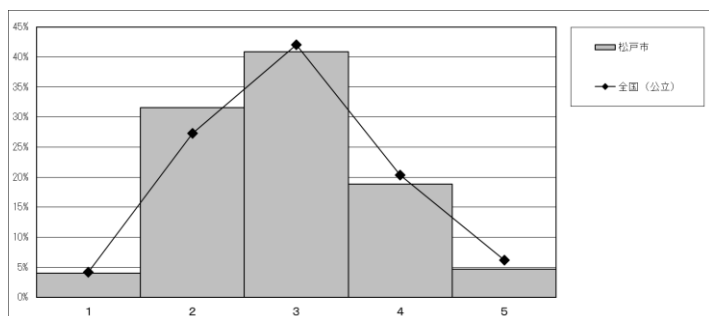
IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したものです。

IRT スコア、IRT バンドの分布について

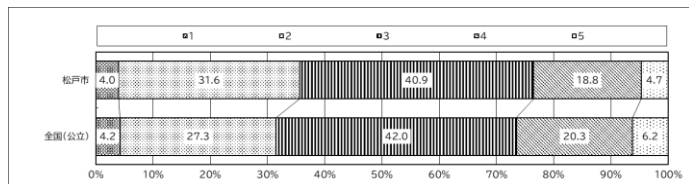
【IRT スコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）】



【IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）】



【IRT バンド分布比較】



【傾向と課題】

IRT スコアについては、標準偏差からスコアの散らばり具合が、全国より小さいことがわかります。

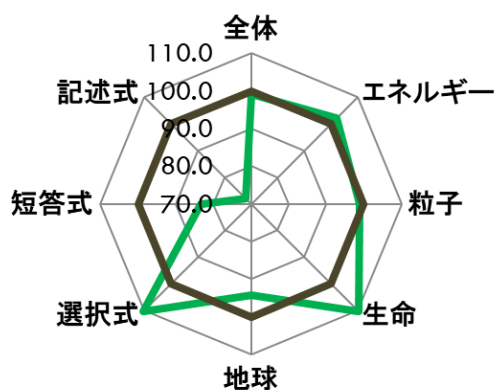
パーセンタイル値及び IRT スコア分布グラフから、学力スコアが高いほど、全国と比較して差が大きくなっていることがわかります。

IRT バンドについては、全国と比較した場合、平均バンドの3である生徒の割合が、少ないことがわかります。

また、バンド1, 2の生徒の割合が多く、バンド4, 5の生徒の割合が少ないことがわかります。

教科についての傾向と課題

（千葉県教育委員会の分析ツールで作成。各区分の全国の平均正答率を100とした場合の相対値を示す。）



【傾向と課題】

領域については、全国平均とほぼ同程度が『生命』を柱とする領域では上回っています。問題形式については、選択式が上回っています。

しかし、『地球』を柱とする領域と「記述式」「短答式」の問題形式では、全国を下回っており課題といえます。

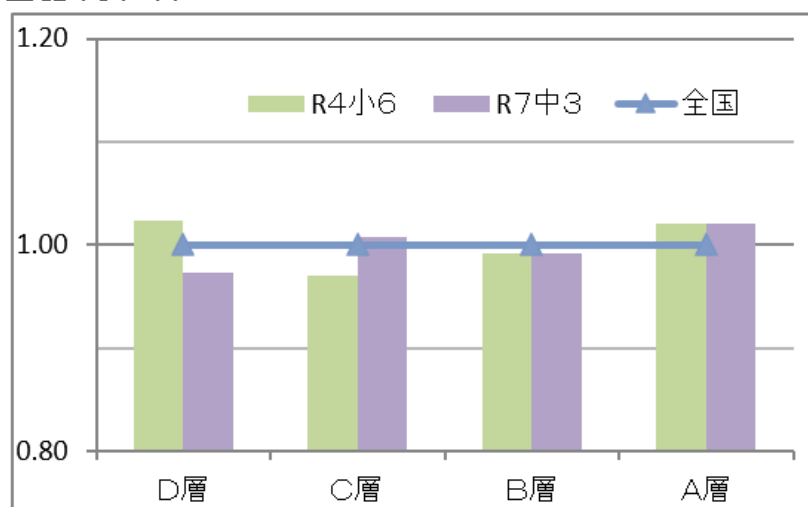
令和7年度全国学力・学習状況調査 同一集団の推移【R4小学6年生とR7中学3年生】

対象児童生徒数

| | 令和4年度 市立小学校の6年生 | 令和7年度 市立中学校の3年生 | 増減 |
|---------------------|--------------------|--------------------|-------------------------|
| 4月17日に 調査を実施した人数 | 3,596 名 | 3,170名 | -426名 ※私立中学校への進学等による |

4つの学力層の推移

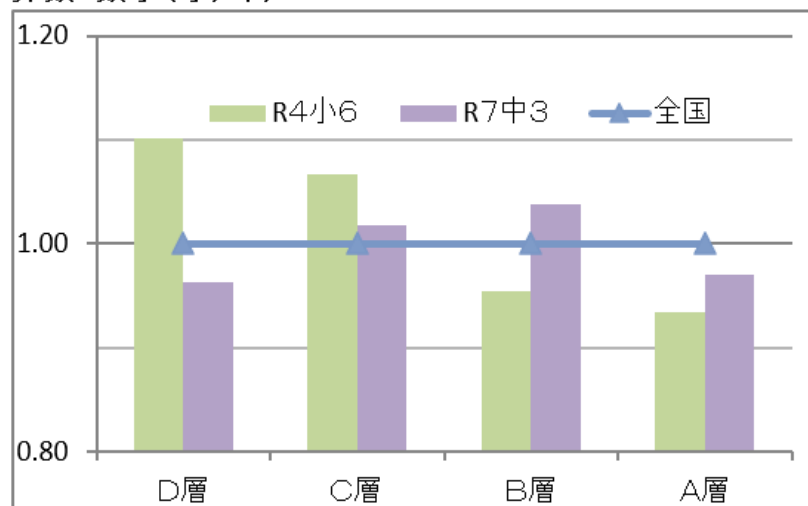
国語(小/中)



(松戸市の値) ÷ (全国平均の値)

| | D層 | C層 | B層 | A層 |
|------|------|------|------|------|
| R4小6 | 1.02 | 0.97 | 0.99 | 1.02 |
| R7中3 | 0.97 | 1.01 | 0.99 | 1.02 |

算数・数学(小/中)



(松戸市の値) ÷ (全国平均の値)

| | D層 | C層 | B層 | A層 |
|------|------|------|------|------|
| R4小6 | 1.10 | 1.07 | 0.95 | 0.93 |
| R7中3 | 0.96 | 1.02 | 1.04 | 0.97 |

【傾向と課題】

同一集団を比較したとき、学力層の「底上げ」は図れているといえます。

ただ、国語のA・B層の変動はなく、課題は、「主に国語科A・B層の引き上げ」といえます。

※理科につきましては、中学校がIRT調査になったため、推移を示すことができません。

児童生徒質問調査と学力の関係についての分析及び考察

以下の回答をした児童生徒は、正答率が高い傾向にあります。

1 基本的生活習慣等

- ・毎日朝食を食べている（小）
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ている（小・中）
- ・毎日同じくらいの時刻に起きている（小・中）

2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

- ・自分にはよいところがあると思う（小）
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う（小）
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（小）
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う（中）
- ・学校に行くのは楽しいと思う（小）
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（小）
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある（小）

3 学習習慣、学習環境等

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している（小・中）
- ・学校の授業時間以外に、普段、勉強をしている（小・中）
- ・学校が休みの日に、多く勉強をしている（小・中）
- ・学校の授業時間以外に、普段多く読書をする（小）
- ・自宅に、本が多くある（小・中）
- ・新聞を読んでいる（小）※週1～3回程度が最高
- ・読書が好きだ（小・中）

4 地域や社会に関わる活動の状況等

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（小）

5 ICTを活用した学習状況

- ・授業でICT機器を多く利用している（中）※1日1回程度が最高
- ・自分は、ICT機器で文章を作成することができると思う（小・中）
- ・自分は、インターネットを使って情報を収集することができると思う（小・中）
- ・自分は、ICT機器で情報を整理することができると思う（小）
- ・自分は、ICT機器で学校のプレゼンテーションを作成することができると思う（小・中）

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した（小・中）
- ・授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ（小・中）
- ・授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った（小・中）
- ・授業で、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた（小・中）

- ・学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげられた（小・中）
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりできると思う（小・中）
- ・先生は、自分が理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う（中）
- ・友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら解決に取り組んでいる（小・中）

7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（小・中）
- ・学級生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている（中）
- ・道徳の授業では、自分の考えを深め、学級やグループで話し合う活動に取り組んでいる（小）

分析から見える、学力向上に向けての方策

学校では

- ◆児童生徒が自ら「学習したい」「知りたい」と意欲がわく、導入などでの内容の工夫・改善をする
- ◆個々の児童生徒の理解に沿った学習支援を行う（「個別最適な学び」の具現化）
- ◆授業においては児童生徒自身で学習課題を作り、協働しながら課題解決に向かうよう工夫する
- ◆「学習した内容」と「普段の生活や将来」を結びつけた、まとめや振り返りの活動を取り入れる
- ◆分かった点・分からなかった点を見直し、次の学習につなげられるような授業展開を取り入れる
- ◆話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、新たな考え方に気付けるように工夫する
- ◆授業では次のような場面を設定し、言語活用科のスキルを活用できるようにする
 - ・自分の考えを書いたり、発表したりする
 - ・理由や根拠を説明する
 - ・相手の考えを最後まで聞き、整理する
- ◆問題の解き方がわからなくても、最後まで諦めず、いろいろな方法を考えるよう指導する
- ◆家庭学習の充実に向けて、家庭との連携を図る（e-ライブラリ等の家庭学習ツールを活用する）
- ◆児童生徒が達成したことや達成するために努力したことを称賛する
- ◆総合的な学習の時間や特別活動の充実を含め、教科等横断的な視点での授業改善を行う
- ◆ICT（動画やデジタル教科書等）を効果的に活用した、分かりやすい授業を実践する

家庭では

- ◆朝食を食べることや決まった時間に寝起きすることなど、生活習慣を身につける
- ◆学校の授業時間以外に勉強する時間を確保する
- ◆携帯電話・スマホ、テレビ、ゲーム等の時間を調節できるよう約束を決める
- ◆本や新聞を読む習慣をつける

教育委員会では

- ◆学校における学力向上を目指した取り組みを積極的に支援する
- ◆教員の指導力向上を目指した効果的な研修を実施する
- ◆言語活用科の学びが、教科の学習に活用が図られるようにする
- ◆調査の分析結果を情報提供し、各学校における実態分析や指導改善を推進する